



FIT 1.5チャレンジカップは2番手スタートの伊藤裕士選手が優勝。

FIT 1.5 最終戦は伊藤裕士選手が逆転優勝

2018年の鈴鹿クラブマンレース最終戦は、フルコースを舞台に11月24～25日の2日間、行われた。

JAF地方ツーリングカー選手権が懸かるFIT 1.5チャレンジカップは、24日に行われた予選では西田拓矢選手がポールポジションを獲得。しかし翌25日決勝では2番手スタートの伊藤裕士選手がスタートで飛び出し、トップに立つ。

伊藤選手は2周めにはこの日のファステストラップとなる2分33秒533を叩き出して逃げ切りを図るが、西田選手も離れず、4周めには0.4秒後方に迫った。しかし安定したラップを刻み続ける伊藤選手をパスすることは叶わず、

0.7秒差で西田選手を従えた伊藤選手がトップチェッカーを受けた。

「スタートで前行かれたら勝てないと思ってたので、トップに出た後は前だけ見て走りました」と伊藤選手。チャンピオンの可能性も残して臨んだ一戦だったが、タイトルは3位に入ったヒロポン選手のもとへ。

「彼の順位は見ないようにして走りました。彼が4位だったら獲れたんですけどね。そういう意味では残念。このレースも4年めを迎えて、皆ブレーキングポイントなんかも一緒になってきて、なかなか抜けないレースになってきたけど、来年も狙います」とリベンジを誓った。

ットを決めてリードを広げるが、4周めに入る手前の最終コーナーで突然スロウダウン。リタイヤとなってしまふ。

これでトップはオープニングラップで2位まで順位を上げていた4番手スタートの小林天翔選手。残る3周も後続の追撃を退けて優勝。シリーズチャンピオンの座も手に入れた。

「レースは何か起きるか分からないを実感した決勝でした。トップに立った後は抑えるところはしっかり抑えてタイヤをなるべく壊さないように走りました。一年間、タイヤの使い方が課題だったので最後でそれができた感じです」と小林選手。今年が最後のつもりで走った、という勝負の年に獲得した初の栄冠を喜んでた。

RSクラスは61歳の阿部博行選手がポール・トゥ・フィニッシュを飾り、クラス2年めで期待の初優勝を手に入れた。

「後ろの米谷さんがめっちゃ速いので殺されそうでした(笑)。ユーズドタイヤだったから最初からガンガン行くときつかないと思ったけど、セーブさせてくれなかったです。RSは今まで乗った中で一番速いマシンなんで最初は首とかに来て吐きそうになったんですけど、クルマもだ

N-ONE OWNER'S CUPも雌雄を決するFINALが行われた。コースレコードを獲得した小野貴史選手が決勝でもホールショ



1. F4西日本シリーズで快勝した太田格之進選手。「いいクルマを用意してくれたチームに勝たせてもらったと思っているので、来年は自分の力で勝ったと言えるようなレースをしたい」と振り返った。2. クラブマンスポーツを制した西村和真選手。3. RSクラス優勝は阿部博行選手。4. レース終盤、トップ2台が接触で順位を落とす波乱の展開となったS-FJは三宅詞選手が優勝。



5. FE2クラス優勝の堀田誠選手。6. CS2クラス優勝は小山美姫選手。7. FFチャレンジクラスは松下裕一選手が快勝。8. F4西日本Hクラスで優勝の八巻沙選手。9. FE1クラス優勝の大崎達也選手。10. NEOクラス優勝の安橋徹選手。11. F4西日本Hクラス2位入賞の山浦聖人選手。12. クラブマンズポーツ2位入賞の鍋家武選手。13. FE2で2位入賞の永井秀和選手。14. FE1で2位入賞の富永明選手。15. RS2位入賞の米谷浩選手。16. CS2で2位入賞の柴田隆之介選手。17. FFC2位入賞の林大輔選手。18. N-ONEで2位入賞の西郷倫規選手。19. F4西日本で3位入賞の岩佐步夢選手。20. S-FJで3位入賞の吉田重弘選手。21. FE2で3位入賞の上松陽光選手。22. FE1で3位入賞のKitai Takeshi選手。23. RS3位入賞の大城一選手。24. CS2で3位入賞の松本吉章選手。25. クラブマンズポーツ3位入賞のいむらせいじ選手。26. F4西日本Hクラス3位入賞の内村浩二選手。27. F4西日本上位入賞の皆さん。28. S-FJ上位入賞の皆さん。29. FIT 1.5チャレンジカップ上位入賞の皆さん。30. FIT 3位入賞のヒロポン選手。31. N-ONEで3位入賞の岩間浩一選手。32. FFC3位入賞の鶴口裕太選手。33. 47台が参加したN-ONE OWNER'S CUP FINALは小林天翔選手が優勝でシリーズチャンピオンも獲得。34. FIT 2位入賞の西田拓矢選手。35. S-FJで2位入賞の徳升広平選手。36. この日のS-FJを制した三宅淳詞選手はF4西日本では2位入賞。

いぶ仕上がってきたんで、来年もやる予定です」と阿部選手。選暦を過ぎてても衰えぬモチベーションを語ってくれた。

23台が出走と相変わらぬ人気を見せたVITA-01のファンメイク、クラブマンズポーツは予選からライバルを圧倒するタイムを叩き出した西村和真選手が初優勝を飾った。

「スタートで回転数が落ち込んだんですけど、うまくクラッチを繋げることができたので何とか1位を守り切れました」と振り返った西村選手はモータースポーツの実戦は未経験ながら、

レーシングシミュレーターでじっくり腕を磨き、満を持して第4戦から参戦を開始。いきなりPPを奪取した異色の経歴の持ち主だ。

「鈴鹿のコースは(シミュレーターで)知り尽くしていますが、縁石の高さや路面のうねりは実際に走ってみたいと分からないので、その辺の

経験値が上がったことが結果に結びついたと思います」と冷静に振り返っていた。

なおJAF地方選手権の懸かるフォーミュラ、F4西日本は太田格之進選手がポール・トゥ・ウィンを飾り、鈴鹿スーパーFJは三宅淳詞選手が波乱の展開となった一戦を制している。